

品質向上のカギは 20 代技術者の強化にあり ～ソフトウェアエンジニアリングで増やす知識の引き出し～

【アンケート】 ソフトウェア開発者の育成およびソフトウェアエンジニアリング

セミナー出席者に対し、ソフトウェア開発者の育成およびソフトウェアエンジニアリングに関するご意見を、アンケート形式で伺いました。本セミナーの出席者は、「若手ソフトウェア開発者の育成」というテーマに関心のある、人材育成担当者およびプロジェクトマネージャが中心です。「若手ソフトウェア開発者の育成にかかわる問題」について多数のご意見を頂戴しました。また、ソフトウェアエンジニアリングについても多くのご意見を頂戴しました。以下はその集計結果をまとめたものです。

調査日：2008年2月1日

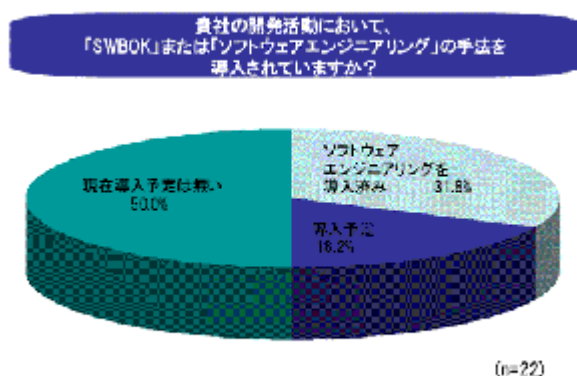
調査対象：「品質向上のカギは20代技術者の強化にあり」無料セミナー出席者
(人材育成担当者、プロジェクトマネージャ、エンジニア)

有効回答数：24

アンケート形式：記入式(選択式及び自由回答)アンケート

【1】 貴社の開発活動において、「SWEBOK」または「ソフトウェアエンジニアリング」の手法を導入されていますか？

独自の開発手法で取り組まれている、あるいは導入していない、という回答が半数で、ソフトウェアエンジニアリングを導入しているという回答が約3割でした。SWEBOKを実際に活用しているという回答はありませんでしたが、コメント欄には「SWEBOKという言葉始めて聞き、非常に興味を持った」という意見が大変多く寄せられました。



【2】若手ソフトウェア技術者の育成にあたり、問題と考えられるのはどのような点ですか？具体的なご意見をお寄せください。

要求工程からシステムテストまでの全工程を経験出来る機会が20代開発者は少なく、全工程でのプロセスを理解させ、ソフトウェア品質向上にベクトルを向けるのが難しい

ソフトウェア開発の全体感を把握しておらず、一分野の知識しかない

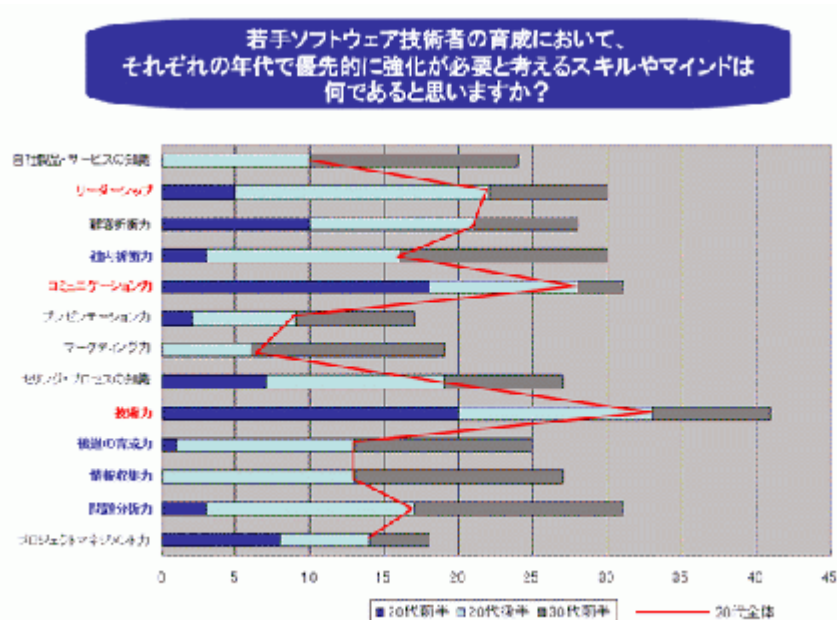
言われたものを言われたように作る技術者が多い。なぜそれが必要なか、全体からみて、どんな位置づけかを考えない

入社時の新入社員に習得する内容が多すぎて、配属後のOJTと連携がとりにくい

人間としての基本的なコミュニケーション能力の不足

開発の概念を知らずにプログラミングのみ行っている

知識が偏ったまま現場で仕事をしている



教育コストが十分につけられない。十分な知識を得ないまま、プロジェクト投入が行われてしまう

アウトソースが進展しているため、即戦力化に時間がかかること

まず技術的な部分を第一に考えてしまう。マネジメントを覚える前に仕事を覚えるべきという慣習

早期戦力化を目的としての育成に重点が置かれる為、特定の要素技術の修得のみになってしまい、基礎が身に付かず、応用力がない

指導者にもよるが、若手に自分のやり方を押し付けてしまい、そのやり方しか知らないままになってしまふ。また業務をまかされると、別の手法を学ぶ機会が与えられない(業務が回っている = そのやり方が正しいから別の手法をとり入れる必要はないという判断)

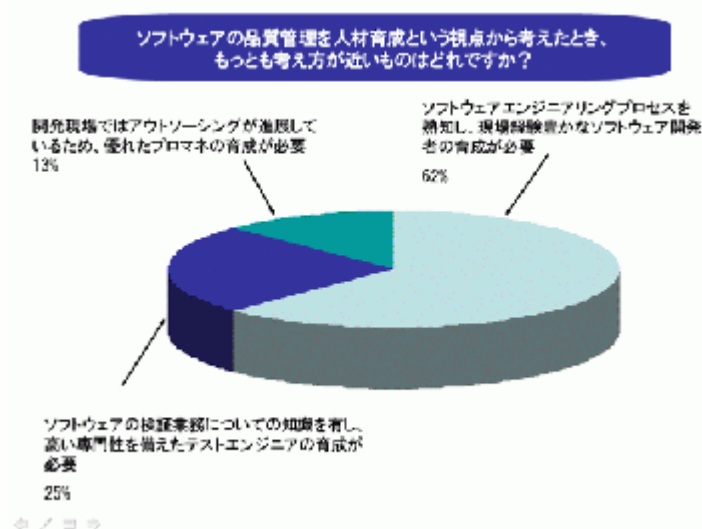
フォロー不足

例としてあげた「ソフトウェアエンジニアリングの基礎を修得しないまま、言語だけ学習して開発現場に入ってしまう」には3名の方が「そのとおり」とお答えになっていました。

全体像がつかめないままに自分の工程を進めていることを問題視する意見が多く見受けられました。また、現場では開発に必要な技術力の向上が優先されてしまい、その他に伸ばすべきスキルが思うように伸びない、といったことを危惧する意見も多くいただきました。

【3】若手ソフトウェア技術者の育成において、それぞれの年代で優先的に強化が必要と貴方が考えるスキルやマインドをお答え下さい。(複数選択可)

20代前半・後半をあわせると「技術力」のおよび「コミュニケーション力」の強化が必要、という意見を非常に多くいただきました。技術も重要であるが、人間的な成長も重要だと考えられていることがわかります。また、「リーダーシップ」も非常に多くの回答をいただいております。自分から積極的に動き、若いうちからリーダーシップを発揮する人材が求められているようです。一方30代前半になると後進の育成力、顧客折衝力、プロジェクトマネジメント力といったビジネススキルの強化が必要であるという考えが多くなっています。



【4】ソフトウェアの品質管理を人材育成という視点から考えたとき、もっとも考え方が近いものはどれですか？

「ソフトウェアエンジニアリングプロセスを熟知し、現場経験豊かなソフトウェア開発者の育成が必要」という回答が6割を占めていました。ソフトウェア開発手法を身につけた人材が求められています。

【まとめ】

ソフトウェアエンジニアリングを活用することで開発力のアップと高品質なソフトウェア提供が見込めます。若手エンジニアの育成にはソフトウェアエンジニアリング手法およびプロジェクトマネジメントの教育をおすすめします。早くから体系だった知識をつけることにより、より一層御社の戦力になることと思います。また、アンケート結果にもあるように、コミュニケーションスキルやリーダーシップといった「ヒューマンスキル」分野の教育もおすすめです。